



NO.34 2015. 9

発行者 特定非営利活動法人 チャレンジド ステーション クジラ
196-0003 東京都昭島市松原町3-6-7 アートヒルズ105
法人:TEL/FAX042-542-7288 事業所:TEL/FAX042-569-6433
Email npo-kujira@9jira.com URL <http://www.9jira.com>

朝夕はめっきりしのぎやすくなり、虫の声に秋の訪れを感じます。皆様お元気に猛暑を乗り切られましたでしょうか？

春の七草は、食べて無病息災を願うのに対し、秋の七草は、眺めて楽しむ草花だそうです。秋の彼岸に備える「おはぎ」は「萩」から由来しているのですね。

秋の七草は、山上憶良が万葉集の歌で選定し、今に至っているそうです。

「秋の野に咲きたる花を指折り(およびをり)かき数ふれば七種(ななくさ)の花」

「萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花」

*朝貌はヒルガオ科の朝顔ではなく、桔梗だそうです、むくげ・ひるがおとの説もあります。



東京都の最低賃金が10月から時給907円になります

厚生労働省の中央最低賃金審議会では、2015年度の最低賃金を全国平均で18円引き上げ、798円にする目安を決めました。引き上げ幅の目安は都道府県を経済状況などに応じてA～Dの4つの分類に分け、東京・神奈川・大阪などA地域は19円、埼玉・京都などのB地域は18円、北海道・新潟・高知などのC・D地域は16円上がります。

参考:東京都の過去10年間の改正状況

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
引上額	4円	5円	20円	27円	25円
時間額	714円	719円	739円	766円	791円

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
引上額	30円	16円	13円	19円	19円
時間額	821円	837円	850円	869円	888円

*賃金が時給907円を下回る方は、クジラにご相談ください。

リレーコラム

第 29 回



株式会社サンドラッグ・ドリームワークス
管理部総務・人事課兼フィールドマネージャー
林光男様にご寄稿いただきました。

『やれば何でも出来る！！』

株式会社サンドラッグ・ドリームワークスは、2012 年 2 月 8 日に株式会社サンドラッグの特例子会社として認定を受けました。東府中の本部、国立事業所の 2 拠点で事業を展開しており東府中本部では事務事業、本部清掃事業、店舗清掃事業、国立事業所では白衣管理事業、伝票処理・備品出荷事業、ショーカード発行事業を行っております。

その中で店舗清掃事業とショーカード発行事業を担当しているクジラの登録者である T さんと S さんをご紹介します。

1. 店舗清掃事業

現在スタッフ 5 名、指導員 1 名で営業時間中の店舗に伺い商品陳列棚清掃を中心に行っております。店舗清掃事業で活躍をする T さんは、2013 年 9 月に入社し今年の 9 月で丸 2 年を迎えます。店舗清掃事業でスタッフが一番苦労している点は、お客様に商品の取扱いを尋ねられたり、商品の陳列場所を尋ねられたりとお客様にお声を掛けられたその都度、指導員にしっかり伝える。また、自分が棚清掃を行っている時に、お客様がその横や後ろで商品をお選びになった時には、その場から離れるという事です。お客様にお声を掛けられた時の対応方法は「少々お待ちいただけますか、係りの者を呼んで参ります」。これは業務前に発声練習を行っておりますが中々上手く声が出ませんでした。今ではスムーズにそして笑顔でお客様に対応出来るようになり、商品をお選びのお客様が来られた場合には、その場を離れるという事をしっかり出来るようになりました。その中の一人が T さんです。笑顔で対応が出来るという事はとても素晴らしい事ですし、業務も「正確」に「丁寧」に行なっております。

2. ショーカード発行事業

店舗で使用するショーカードやプライスカード、ポスター等販売促進物の製作を行っているショーカード発行事業は現在スタッフ 18 名、指導員 4 名でサンドラッググループのショーカード発行事業を行っています。

この事業で活躍をする S さんは 2013 年 3 月 26 日のこの事業の立上げ時に入社してもらい 2 年半になります。ショーカード発行事業の業務の中で S さんの役割は、裁断されたショーカードを各物流センター毎に振分ける業務、それを店舗毎に振り分ける業務、それから納品書に記載されているショーカードがあるか確認をする検品業務、それをビニール入れる梱包業務になります。当初から驚いていたのですが、S さんの記憶力と検品の速さ正確性はスタッフや指導員を併せても 1 番です。これは本当に凄い能力で、指導員も安心して任せております。

T さんと S さんは現在スタッフ全員の中心的存在となっております。これはご家族の方のご協力、日頃から支援をしていただいております東條所長や山崎様のお力添えのおかげだと思っております。

今後とも引続き就労支援センタークジラの皆様のご支援をいただきスタッフ、指導員一同成長したいと思っておりますので今後とも宜しくお願いいたします。



貴重な2年間



私は、渋谷区広尾にある日本赤十字社医療センターの薬剤部で7月から働いています。

仕事は、午前中に、入院患者さんの個人トレーの回収と使用しなかった薬剤の返納、今日使用する薬剤の取り揃え（ピッキング）をし、午後は薬剤棚やピッキングマシンに薬品の補充と返納件数の入力作業等をしています。薬品の種類がとても多く、同じ薬品でも量の違いで何種類もあります。点滴薬関係を重点的に任されているので、名前と色で大体、場所がわかるようになりました。責任のある仕事なので、間違わないように緊張してやっています。

私は、昨年の3月に都立青峰学園を卒業し、就職しましたが、ずっと都心の会社で事務系の仕事をするのが夢だったので、3ヶ月で退職しました。青峰学園の先生やクジラ、親とも相談し、働きながら苦手なことの訓練もできる東京都教育委員会のチャレンジ雇用に応募し、採用になりました。勤務先の都立清瀬高校で、週4日、事務補助員として校内外の清掃やパソコン入力などの仕事をしました。最初は清掃中心の仕事に戸惑いましたが、色々な仕事を経験するためと納得しました。「仕事に集中すること」や「社会人としてのマナー」を学びました。仕事の休みの水曜日は就活の日と決めて、ハローワークで求人検索やクジラで応募書類の記入や面接練習をして、たくさんの会社に応募しました。大きな面接会にも参加しましたが、なかなかうまくいかず、就職活動の厳しさをしり、チャレンジ雇用終了までに就職できるかと心配になりました。

そんな時、青峰学園の先生とクジラから日本赤十字社医療センターの求人の話をいただきました。渋谷は実習で通ったこともあり、是非、チャレンジしたいと思いました。面接と1週間の実習後に採用が決まりました。自分の夢がかなって本当に嬉しかったです。

サプライズで清瀬高校の支援員さんや事務室の方が就職祝いとお別れ昼食会を開いてくれました。自分は気が付かなかったのですが、クジラの市村さんから“お世話になった人に感謝の手紙を書こう”と言われ、一緒に2時間かけて3人を書いて直接、手渡しをしました。ハローワーク立川の磯谷さんは毎回、話を聞いてくれてアドバイスしてくれました。青峰学園の原先生は面接と一緒に来てくれました。たくさんの人のお世話になったことに感謝することの大切さを教えてもらいました。

これからも、責任感を持って仕事に取り組むことと、次に実習に来る青峰学園の後輩のためにも、先輩として恥ずかしくないように頑張っていきたいと思います。自立が次の夢です。

(小島 勇太)



ナイトサポートとホリデーサポートのお知らせ

就労をしている皆さまが会社の帰りや休日に気軽に相談できるように「ナイトサポートとホリデーサポート」を行っております。

予約制ですので必ず電話で予約をしてからご来所下さい。

(Tel 042-569-6433 まで)

ナイトサポート (17:15 ～ 21:00)	ホリデーサポート (10:00 ～ 16:00)
9月4日 金曜日	9月20日 日曜日
10月2日 金曜日	10月18日 日曜日
11月6日 金曜日	11月15日 日曜日
クリスマス会を予定しています	
1月8日 金曜日	1月17日 日曜日
2月5日 金曜日	2月21日 日曜日



加納正障害者雇用の見聞録



前号では、映画「龍三と七人の子分たち」の紹介でペンを置きました。（今はペンを使っていないので「文書保存」しましたか？）若い時、「趣味は？」と問われると、「読書と散歩と貯金」と答えることにしていた。実際、自分で趣味と呼べるようなものはなく、対人関係が得意でなく、ひとりで気ままに時間を過ごすことの方が楽なのかも。年間、読書は 100 冊、スポーツ観戦（プロ野球、ラグビー）20 試合程度、映画鑑賞（ジャンル問わず）25 本が目標。（世間ではこれを趣味と呼ぶのか）

団塊世代の終わりに生まれ、1970 年前後の全共闘運動の政治背景が色濃い時代、池袋の文芸座で「網走番外地」6 本オールナイト興行を観にいった記憶が。ちなみに高倉健の映画は「ヤクザ路線」時代からほとんど観ている。一匹狼で闘う姿に、ノンセクトラディカル※の立ち位置が、自分自身の生き方にも影響を受けた。

障害者問題を扱った映画も多い。「レインマン」は 5 回位観て初めて発見したことや、「アイアムサム」（アメリカスターバックスで働く障害者が主人公）の映画から、日本のスターバックスの障害者雇用の取組が始まったり、映画は、いろいろなことを教えてくれ、人を動かす力がある。「映画の世界へようこそ♪」（む？「MOVIX 昭島」の開演テーマソングか）映画の世界へお付き合いください。

※ノンセクトラジカル とは、全共闘時代以降に成立した、党派に属さない活動家やグループをさす。

6 月〇日 映画「あん」 ～やり残したことはありませんか～

ぜひ観たいと思っていた作品である。刑務所から出所し、どら焼き屋「どら春」の雇われ店主となった千太郎の店の求人募集の張り紙を見て、そこで働くことを懇願する徳江（樹木希林）という老女が現れる。採用し、どら焼きの粒あんづくりを任せることに。徳江は長い間「あん」を作り続け、「あん」づくりの腕は名人級で、あまりに美味しく、みるみるうちに店は繁盛する。しかし、元ハンセン病患者との心無い噂が……。ハンセン病患者が、偏見と差別の中、また、国の誤った隔離政策の中で、どれほどの苦難と屈辱の人生を強いられたか、淡々とストーリーの展開に、セリフの中に表されていた。そして、たくさんの涙を超えて、生きていく意味を問にかけている。『私たちは、この世を見るために、聞くために、生まれてきた。この世は、ただそれだけを望んでいた……だとすれば、何かになれなくても、私たちには生きる意味があるのよ』そして徳江をして言わせている『私たちも陽のあたる社会で生きたかった』と。



なんと、重い言葉であろうか。障害者問題と関わる中で、いくつかの言葉に感銘させられ、先人たちの苦労や思いに学ぶことが多々あった。『この子らを世の光に』と説いた、「精神薄弱児の父」と称された近江学園の糸賀一雄氏は、「精神薄弱者」に世の人々の支援を訴えたのではなく、彼らの存在が社会の財産として、人が人として生きる社会の変革を願っていた。

障害者運動のオピニオンリーダーと目されていた、^{しらべかずおき}調一興氏（東京コロニー）から戦後の結核回復者の社会復帰の取組を伺ったことがある、「養豚業をやり豚のえさ集めをやりながら中傷、差別の中、一つ一つの闘いの積み重ねで制度要求や権利確保を勝ち取った」ものだと。

1918年、今から百年前に精神障害者の実況調査の結果として、東京大学医学部^{くれしゅうぞう}呉秀三先生は『この病を受けたるの不幸の外に、この国に生まれたるの不幸を重ねるものと言うべし』と指摘し、政府や行政施策の不備、場合により排除してきていることへの警鐘を鳴らしていた。

しかし、その後も精神障害者の対策のみならず、ハンセン病、サリドマイドをはじめとした薬害被害対策などを見ると、国の政策、行政の目的が民生の安定であることを忘れているのではと思わざるをえない。とりわけ戦後70年と言われる今日この頃。

サブタイトル～やり残したことはありませんか～の問いに、徳江は、社会で働くことを求めているのではない。文字通り、何の束縛もない（人権を無視され、偏見と差別で隔離された施設でなく）社会で生きるとは、自分の意志で自由に行動が出来、どんな働き方でも自分の能力、欲求を発揮し（自己実現）、社会と関わることを通し（社会参加、貢献）、自分の存在感や達成感を得られ、豊かな人生となるのではないか。



6月〇日 映画「サンドラの週末」

仕事を続けるための条件 →16人の同僚うち過半数がボーナスではなくサンドラを選ぶこと

後輩のS女史の薦めで渋谷の映画館へ観に行った（良い作品なのに上映館が都内2ヶ所のため）。

ストーリーは、サンドラはメンタルの病気で休職しており、安定剤は服薬しているが克服し職場復帰しかけた矢先、金曜日の午後、解雇の知らせが舞い込んだ。「サンドラの復職か1,000ユーロ（15万円）のボーナスか」の選択を迫られた工場の仲間は、サンドラの復職より1,000ユーロ（15万円）のボーナスを選んだ。職場の主任は、16人の同僚に「ボーナスを選ばないとあなたが失業する」とサンドラを解雇する方向で投票を迫ったのである。

サンドラは理不尽な決め事を覆そうと、会社経営のため合理化を進めなければならない社長と交渉、「月曜日再投票で、サンドラが復職することに16人の仲間の過半数同意を得れば、解雇撤回約束」を取り付ける。サンドラは安定剤を飲みながら、辛抱強くサンドラを支える夫とともに、16人の同僚に電話や家庭訪問で解雇撤回への賛同を依頼する。理解し、サンドラの解雇撤回に賛同する同僚、家庭の事情で他者の解雇より、ボーナスがどうしても必要なため賛同しない（賛同できない）同僚。復職に向けたサンドラの思い、支援する夫、労働者の連帯や仲間として助けたいが、自ら事情に悩む同僚……でも、最後は…。

職場の合理化では、一番弱い労働者がターゲットになるケースが多い。本来連帯すべき職場の同僚、労働者も一人ひとりの人生、家庭の事情を抱えている。働いているといろいろなことがある。困った時は、一人で悩まず、「チャレンジド ステーション クジラ」に相談を。



5月30日 映画「人生、ここにあり！」バリアフリー版

「昭島市障害者（児）福祉ネットワーク・市民フォーラム2015実行委員会」主催、昭島市民ホールで。

日本の精神科の病床は34万床と世界に飛びぬけて多いのが実態。イタリアでは1978年に精神科病院の新設、新たな入院を禁止する法律ができた。それから5年ほど後、ミラノの閉鎖病院の元患者による協働組合がとそのメンバーが舞台。メンバーは無気力に過ごしていたが、会議を開きお金を稼ぐこと、働くことについて相談するが個性的なメンバーが多くまとまらない。

しかし、現実の社会の中で仕事の失敗を通し、少しずつ変わっていく……。 「精神障害者の回復は社会生活の中で」との考え方が主流となってきているが、失敗しても長い目で支えるシステムが必要と考えさせられ、働くことを通じ、失敗しても社会の中で生きていく大切さを改めて感じた映画。

（文責 加納）



NPO 法人 チャレンジドステーションクジラ賛助会について

NPO 法人 チャレンジドステーションクジラ賛助会へ多数のご協力をいただきましてありがとうございます。今後も一層の努力をして参りますので宜しくお願いいたします。
賛助会は随時受け付けております。

年	会	費	1	□	2,000円
連	絡	先	042	(542)	7288
振	込	先	青梅信用金庫昭島支店		
普	通	□	座	店番	015 □座番号 0711599

特定非営利活動法人 チャレンジドステーションクジラ 理事 東條芳男